

工業用水道 第 3 次管路更新計画（案）

～強靱で持続可能な工業用水の安定供給に向けて～

徳島県 企業局

令和 8 年 3 月

1 計画策定の趣旨

企業局が運営する「吉野川北岸」及び「阿南」の2つの工業用水道は、県内主要産業の中核を担う企業に対し、日量約18万トンを超える良質で大量の工業用水を供給し、企業における経済・生産活動を支える重要な役割を果たしています。

一方、総延長約50kmに及ぶ工業用水道の管路は、給水開始以来、古いもので60年近くが経過している状況を踏まえ、老朽化対策を着実に推進するとともに、「南海トラフ巨大地震」をはじめとする大規模災害が発生した場合においても、被害を出さないための管路の耐震化を迅速に進めていくことが、喫緊の課題となっています。

このため、平成24年度の「第1次管路更新計画」を皮切りに、令和3年度には阿南工業用水道を対象とした「第2次管路更新計画」を策定し、計画的に耐震化を進めているところです。

今後、「南海トラフ巨大地震」等の大規模災害の発生が大きく懸念される中、企業の活動を支え、地域経済の復旧・復興の要となるライフラインとして、工業用水の安定的な供給を確保していくため、「徳島県企業局経営計画」との整合性を図りつつ、吉野川北岸工業用水道を対象として、新たに管路の更新に取り組む区間を定めた本計画を策定し、「管路の強靱化」を迅速かつ着実に推進していくこととします。

2 管路更新の基本的考え方

工業用水道管路の耐震化・老朽化対策には、多くの時間と費用が必要となることから、早期の効果発現に向け、計画的かつ効果的に事業を進めていきます。

このため、経済産業省「工業用水道施設更新・耐震・アセットマネジメント指針」を踏まえた「優先度評価」をもとに、重要性・緊急性が高く、より大きな事業効果が見込まれ、最優先に対策を講ずるべき箇所を「優先整備区間」として選定します。

※「優先度評価」

「管路の更新診断」として「経過年数」や「復旧難易度」、「耐震強度」などの「物理的評価」を行うとともに、試掘調査などにより「老朽度」を確認。加えて、受水企業への影響度を考慮した「路線の重要度」や「特殊事情」も加味し、総合的な評価により優先度を決定。

3 本計画で取り組む「優先整備区間」

「優先度評価」において、「ランク I（重要度が高く、短期的に整備すべき区間）」の評価となった次の箇所を「優先整備区間」とします。

【吉野川北岸工業用水道】

◆対象区間 鳴門配水本管 L = 2.78 km

※「鳴門配水本管」全区間のうち、長岸河底横過トンネル終点から松茂配水支管の分岐点まで区間（水管橋部分除く）

◆事業期間 令和8年度～令和16年度（予定）

R8～9 概略設計
R10～11 調査・測量、詳細設計
R12～16 工事実施

管路等	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
鳴門配水本管	概略設計		調査・設計		工事実施				

◆事業効果

- ・対象区間は、浄水施設から松茂配水支管分岐点までの一部で、鳴門・松茂両地区の11者へ給水するための重要な役割を担う基幹管路であり、耐震化により大規模災害発生時における受水企業の活動への影響を大幅に軽減
- ・本工事により、対策の実施が適当であると見込まれる区間を対象とした「耐震化率」は、現在の「41.9%」から、第2次管路更新計画の事業と併せ、「61.6%」にアップ

4 南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害への備え

工業用水の安定供給確保に向けては、「管路の強靱化」はもとより、万一被災した場合に迅速な対応を図るための「レジリエンスの強化」を併せて推進する必要があります。

(1) 管路の強靱化

既に着手している阿南工業用水道の「第2次管路更新計画」と併せ、「第3次管路更新計画」の事業を迅速かつ着実に推進し、管路全体の耐震化達成に向け、引き続き、取組を進めます。

(2) レジリエンスの強化

万一被害が発生した場合に備えるため、次の取組などを進めます。

- ・ 復旧対策に必要な資機材の追加配備や分散備蓄等による「備蓄体制の充実」
- ・ 県関係部局・市町村・受水企業等と連携した「実践的な防災訓練の実施」
- ・ 実施した訓練の結果を検証し、「企業局の防災マニュアルへ反映」

5 計画の見直し

この計画は、社会経済情勢の変化を踏まえ、次の点にも留意しながら、必要に応じて見直しを行います。

- ・ 健全経営の確保
- ・ 計画の進捗状況

(参考) これまでの計画

【第1次管路更新計画（吉野川北岸工水・阿南工水）】

- ・計画策定 H24
- ・事業期間 H24～R3（R4年度完成）
- ・対象延長 約8.4km（吉野川北岸工水 5.7km、阿南工水 2.7km）
- ・対象区間 今切第3配水支管、長岸河底横過トンネル、鳴門配水本管、今切配水本管、今切第1配水支管、送水管、幸野配水支管
- ・事業費 約58億円（実績）
- ・事業効果 耐震化率 0% → 41.9%

【第2次管路更新計画（阿南工水）】

- ・計画策定 R3
- ・事業期間 R4～R15
- ・対象延長 約3.9km
- ・事業費 約72億円（計画）
- ・事業効果 耐震化率 → 54.6%

（送水管）	（幸野・辰巳配水支管）
R5～R10	R4～R15
1,900m	1,980m
約45億円	約27億円（概略設計）
PC管→鋳鉄管 （φ1,000）	配水本管（φ1,000）890m 幸野配水支管（φ700）920m 辰巳配水支管（φ800）180m

管路等	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
送水管		漏水補修	調査設計	分岐工事	シールド工事								
幸野・辰巳配水支管		概略設計	調査	用地	調査・設計	用地		工事実施					

工業用水道 第3次管路更新計画

～強靱で持続可能な工業用水の安定供給に向けて～

◆第3次管路更新計画の概要

- ・対象区間：鳴門配水本管
- ・対象延長：L=2.78km
- ・事業期間：R8～R16年度

吉野川北岸工業用水道管路概要図

